九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[006]ICER Newsletter

https://doi.org/10.15017/1806766

出版情報：ICER Newsletter. 6, pp.1-, 2013-12. 九州大学附属図書館付設教材開発センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

No.6 2013.12

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

教材開発センターの取り組みを紹介

Q-Conference2013ポスターセッションへ参加しました

2013年11月2日(土)に伊都キャンパスにてQ-Conference2013が開催されました。教材開発センターでは、このカンファレンスのポスターセッションへ参加し、ポスター発表を行いました。今回のポスターセッションでは50タイトルのポスターが発表されており、全国の大学や研究機関など様々な分野から幅広い内容の発表がありました。教材開発センターのポスターでは、当センターの概要紹介はもちろん、教員と学生の協働であるP&P*医学教材開発を紹介し、学生主体の開発体制でありながら、医学、情報、理学、芸術工学の学部横断的なつながりを生かした教材開発が進んでいることを紹介することができました。今回のポスターセッション参加は、全学的な組織としての当センターの役割、意義をアピールできる、有意義な機会となりました。教材開発センターのポスターブースへお越しただいた方は、どなたもとても熱心に質問され、担当者が普段意識しない視点から疑問を投げかけられると、少し考えて説明する場面もありましたが、当センターの活動について学内外の方がどのような点がわかりにくい・伝わりにくいのか、どんなことを知りたいのかを改めて認識することができました。教材開発センターをより多くの方に知っていただき、教材の開発・作成を通じて教育の質向上に寄与できるよう、今後もこのような機会があれば参加していく予定です。またどこかでICERのブースを見かけたら、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

【栃原 幸恵(テクニカルスタッフ)】

Q-Links(九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク)
FD・SDの大学間連携による人的ネットワークの構築や情報共有を通じて、各高等教育機関における学習・教育の改善が推進されることを支援し教育活動の向上と発展に寄与することを目的に2009年10月に発足。Q-conferenceは、年に一度メンバーシップが一堂に会し、大学教育改善のあり方や、各大学の取組や挑戦を学び合っていくQ-Links最大規模のイベントとなっており、今回が4回目の開催となる。

*九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト

P&P医学教材開発　～このプロジェクトで学んだこと～

今回、私たちは医学部の学生を対象とする学習用ゲーム(シリアスゲーム)を制作しました。今年の5月末から、普段触れ合うことのない工学系と医学系の学生が集い、対象科目とゲームジャンル等を真剣に議論し、様々な細菌に効く薬を正しく選び、傷病者を救いながらゲームを進めるターン制バトルゲームを試作しました。ゲームの難易度調整に苦労しましたが、細菌学や感染症を履修していた医学部の河津さんに細菌や病気の特性等を教えてもらい調整できました。また、登場するキャラクターのデザインは芸術工学部の渡邉さんに担当してもらいました。私たちの一番の収穫は、専門分野の違う学生が一つのゴールを目指して意見を出し合い、互いに理解し協働する経験であったと思います。

【杉村 涼(システム情報科学府 修士1年)】

MOOCsとは

MOOCs とは、Massive Open Online Courses の略で、日本語では「大規模オープンオンラインコース」となります。MOOCs として著名なのは、Coursera や MIT とハーバード大学が開始した EdX 等があります。日本では、東京大学が Coursera、京都大学が EdX でコースを公開しはじめました。また日本では、最近日本オープンオンライン教育推進協議会 (JMOOC) が設立されました。

授業や授業で使用する教材を無償で広く公開する枠組みは、これまで九州大学でもオープンコースウェアを実施していましたが、MOOCs はどう違うのでしょうか。オープンコースウェアでは、授業そのものよりも授業で使用する教材の公開を主に意図していましたが、最近では授業そのものも公開しています。しかしながら、誰が閲覧しているかが把握できず一方的に配信するのみでした。それに対して MOOCs では受講管理を行います。また、講義視聴中にクイズを出題し、課題を提出します。さらに修了証を発行する場合もあり、正規の授業と同等の内容になります。

JMOOC では九州大学の教員もコースを提供しますが、現時点では九州大学として MOOC の開始を決定したわけではありません。しかしながら、本学で MOOC を開始した際には、教材開発センターで教材作成を支援することになります。

【井上 仁准教授(教材開発センター協力教員)】

知っていますか? 電子教材の著作権

Q 引用が適用できる条件とは?

A 公表された著作物であることなど、いくつかの条件があります。

上記のほか、著作権法第 32 条には「公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれなければならない」と記載されています。また、引用する「必然性」があることや、自分の著作部分と引用部分が明瞭に区分されていること、引用部分とそれ以外の部分に「主従関係」があること、出所(出典)を明示することなどが必要です。

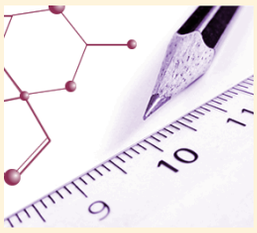
教材の場合の出所明示は、論文の場合とは異なり、引用した部分のなるべく近くにするのがよいでしょう。例えば、プレゼンテーションソフトウェアなどで作成する場合は、他人の著作物と出所を同一のスライドに記載すれば、他の教材として再利用するときの煩雑さも軽減できます。

参考:JMPA 日本医書出版協会 引用と転載
http://www.medbooks.or.jp/forauthor/quot.php

【吉田 素文教授(教材開発センター協力教員)】

今年もライブラリーサイエンス専攻で学習科学を始めました

近年、学習の場としての大学図書館を再構成していくという動きが全国的に活発になっています。ラーニングコモンズを作ることや、学習支援イベントをするというような活動をされている図書館も増えてきました。しかし、こういった、効果的な学習のための環境のデザインをするには、大学図書館員が教育・学習に関係する理論や研究知見について知っておくことが望ましいです。九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻では必修科目授業として「学習科学」を提供しています。学習科学は人間の学びの仕組みや条件、また効果的な学習を支える仕組みを科学的に解明していく研究領域です。ライブラリーサイエンス専攻での学習科学では人の熟達化、リテラシーの習得、知識の転移などを学び、後半は学習科学の知見を活用した、大学図書館に関するプロジェクトワークを行います。また授業期間が終わったときに成果の紹介をしたいと思います。



【山田 政寛(教材開発センター協力教員)】

各種講習会を開催しています

教材開発センターでは、教職員や在学生を対象に、各種講習会を開催しています。
現在開催中の講習会は、「Web 学習システムならびに Handbook 講習会」、「電子教材著作権講習会」、「電子教材開発者および対話型 3D コンテンツ開発者向け講習会」です。いずれも電子教材を作成・利用する際の疑問や不明点にお答えできるよう、有用な内容となっております。ぜひご参加ください!

開催日時などの詳細は、ICER ウェブサイトでお知らせします。下記 URL をご参照ください。

講習会情報はこちら ▶ http://icer.kyushu-u.ac.jp/seminar_cal

編集・発行:九州大学附属図書館付設教材開発センター info@icer.kyushu-u.ac.jp
Copyright(C) 2013 Innovation Center for Educational Resource. All rights reserved.